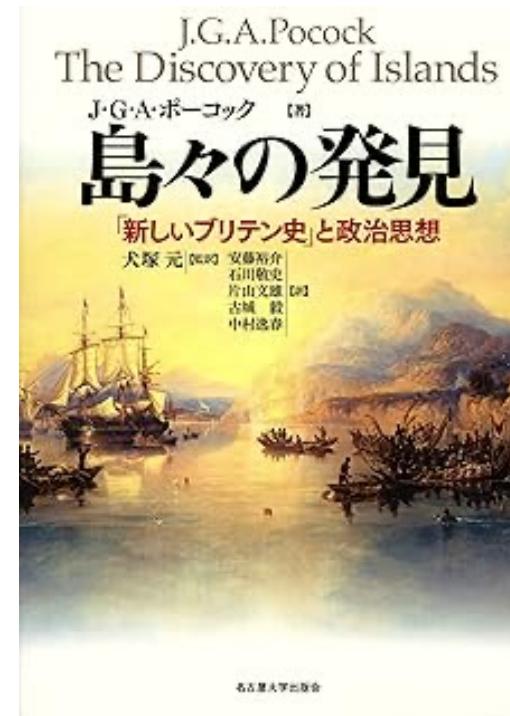
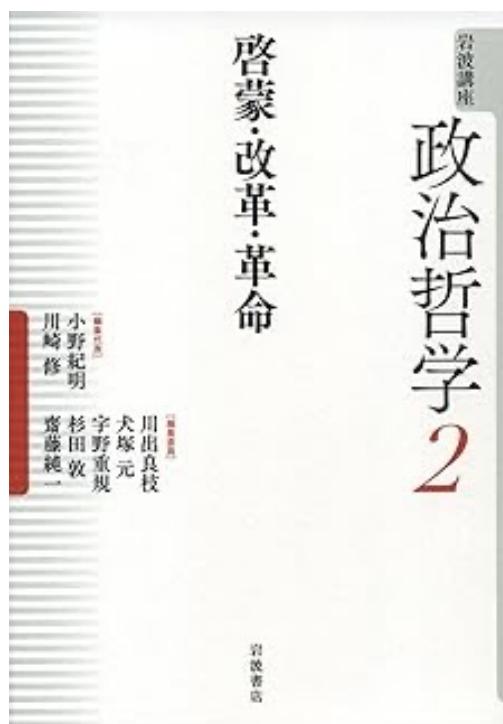


慶應義塾大学 経済学部附属経済研究所  
学史・思想史ワークショップ(2025.5.16)

「テキストを読む手がかり  
としての注」

犬塚 元

(法政大学法学部、政治学史・政治思想史)



# 前提となる方法論的課題

「危険なのは、影響の概念を、あたかも説明をしているかのように用いるのがとても簡単なことである。そこでは、影響の概念を適切に用いるための十分条件、あるいは少なくとも必要条件を満たしているかどうかは考慮されない。その結果、たとえば政治思想史においては、系譜に関する正当化がないままに語られる、旧約聖書の歴代誌第一章のような物語が(きわめて頻繁に)生まれている。たとえば、エドマンド・バークの政治思想の起源についてどう語られているかを考えてみよう。『現代の不満の原因についての考察』におけるバークの目的は、「ボーリングブルックの影響に対抗すること」であったとされる。〔中略〕

こうした説明のほとんどはまったくの神話である。先行する著述家Aの「影響」をもちだすことが、著述家Bがある思想を語ったことの説明に役立つのは、どんな必要条件がある場合か、について考えてみるだけで、そのことは容易に明らかにできる。その必要条件には少なくとも以下の三点が含まれるはずである。(a)AとBの思想がはっきりと類似すること。(b)BはA以外の著述家にはその思想を見いだしえなかつたこと。(c)たまたま類似した可能性がきわめて低いこと(すなわち、類似性があり、BはAから影響を受ける可能性があったと証明できたとしても、Bが実際のところその思想を独自に着想したわけではないことがさらに証明されねばならない)。」

# 学史・思想史における引用分析

□酒井2017

- 「本稿は、引用分析 (Citation Analysis) の手法を政治学史研究に適用し、日本政治学史の把握のための新たな分析方法と論点を提起するものである。ここで引用分析とは、文献間の引用—被引用関係の集積から知見を引き出す方法をさす。」(要旨)
- 政治学史の転換(学問の断絶、研究規範の変化)を、引用パターンの変化から論証
- 具体的には、各年代ごとの政治学教科書における引用文献に注目して、引用数、引用年齢(引用元文献・引用先文献の刊行年の差)、引用数の経年変化などの量的データにもとづいて、引用パターンやその変化を導出

# □酒井2021

- 「学史研究へ計量書誌学を応用するには、計量テキスト分析や共著分析など多様なアプローチが考えられるが、ここでは政治学史上の代表的潮流を特定するため、引用(citation)の分析に注目したい。ここでいう引用とは、他の文献のある部分を抜書きすることではなく、参考文献リストや本文又は注において他の文献を挙示することを指す。計量書誌学においては、引用行為における知識の参照先を示す性質を利用して、論文の被引用数を後続研究へのインパクトの大きさとして解釈してきた。このため被引用数は、研究評価における有力な定量的指標として使用され、計量書誌学における多くの引用分析を可能にしてきた。〔中略〕本稿もまた、被引用数を当該文献のインパクトの指標として捉え、これによって政治学史上の諸潮流の評価を測定しよう。多数の同業者から頻回に引用される業績は、その限りで当該分野の代表的業績とみなすことができるだろう。」(295-296)

- 具体的には、各年代ごとの政治学教科書の引用文献にもとづいて、政治学史上の重要文献(高被引用文献)を抽出したうえで、それらの重要文献が引用する引用文献を全数調査し、思想家やテキストごとの被引用数の変化を明らかにする手法によって、政治学史の潮流(政治学におけるトレンド変化)を検証
- 「そもそも明示的な引用のない、暗黙の参照は把握できない。現代の引用規範から大きく逸脱するケースを補足できないのは、本データセットひいては引用分析の弱点である。〔原文改行〕 また、一般に引用分析では個別の引用の意味を捨象する。しかし、ある文献を先行研究として肯定的に扱うのか、批判対象であるのか、又は当該文献 자체が研究対象であり史料として扱うのかによって、当該引用の意味は異なる。引用の動機に関する分類をデータに加えることは方法上困難なため、本稿では、分析の中で必要に応じて、個別的に周辺情報を補足し、データ解釈に資することとした。」(299)

## □犬塚 2023

- ・日本の西洋政治思想史・政治学史研究に大きな影響力を及ぼしてきた福田歎一の思想史理解は、一般に純国産の独創的な学説と理解されてきたが（「福田パラダイム」とも呼ばれた）、典拠注に注目する手法によって、彼の研究を国際的な研究史の文脈に位置付けて、福田の独創性の程度を検証
- ・「お互いに相手のことを知らないままに、似たような内容を語ることもあるから、一般に、思想史・学説史研究において知的ルーツや系譜を探るにあたっては、似たもの探しをするだけでは駄目である。福田の学説の知的ルーツを明らかにするためのオーソドックスな手法は、彼自身が論文のなかで明示的に挙げた参考文献や典拠資料をひもといていく作業であろうが、すでに記したように、福田の論文は、出典や情報源について饒舌ではなかった。そのため、『成立史序説』だけでなく、この本に至るまでの福田の仕事を追跡して、それらを丁寧に比較対照してみる手法も併用してみよう」（40-41）

## □ Susato and Inuzuka 2025 (forthcoming)

- 注における引用に注目してテキストの特徴を明らかにする手法にもとづいた、ヒューム『イングランド史』の分析
- ヒューム『イングランド史』スチュアート巻におけるすべての典拠注のすべての被引用文献を特定したうえで、典拠注や引用・言及の特徴を定量的に解明することを通じて、『イングランド史』の特徴を分析。とりわけ、歴史叙述の不偏性(impartiality)を標榜するヒューム自身の主観的意図は、実際の『イングランド史』の歴史叙述に照らしてどこまで根拠があるかを、この手法によって検証
- 具体的には被引用数やジャカード係数によって、全体・巻ごと・各パートごとの引用にかかる定量的特徴を明らかにしたうえで、被引用文献の書誌情報・周辺情報やヒュームの活用方法も加味しながら、『イングランド史』における引用・言及の特徴を解明

# いまだ校訂版のない『イングランド史』

He was not, however, insensible to the great flow of affection, which appeared in his new subjects; and being himself of an affectionate temper, he seems to have been in haste to make them some return of kindness and good offices. To this motive, probably, we are to ascribe that profuseness of titles, which was observed in the beginning of his reign; when in six weeks time, after his entrance

<sup>a</sup> Kennet, p. 662.

B 2

into

Hume 1778: 6:3  
note a Kennet, p. 662  
→ White Kennett, A complete history of England, vol. 2, 1706, pp. 661-792に収録されたArthur Wilson, *The Life and Reign of James*, p. 662

quality, which, even when erroneous, is respectable as well as rare in a monarch. He therefore agreed with Rosni to support secretly the states-general, in concert with the king of France; lest their weakness and despair should oblige them to submit to their old master. The articles of the treaty were few and simple. It was stipulated, that the two kings should allow the Dutch to levy forces in their respective dominions; and should under-

<sup>c</sup> Sully's Memoirs.

<sup>z</sup> Winwood, vol. ii. p. 55.

<sup>f</sup> La Boderie, vol. i. p. 120.

B 4

hand

Hume 1778: 6:7  
note g Winwood, vol. ii. p. 55  
→ Edmund Sawyer, *Memorials of affairs of state in the reigns of Q. Elizabeth and K. James I. collected (chiefly) from the original papers of the Right Honourable Sir Ralph Winwood*, 1727, vol. ii. p. 55

of England, without any articles of treaty or agreement, he had ended the war between the kingdoms<sup>1</sup>. This ignorance of the law of nations may appear surprising in

<sup>b</sup> Winwood, vol. ii. p. 27. 33c, et ali. In this respect James's peace was more honourable than that which Henry IV. had himself made with Spain. This latter prince fulfilled a vow to assist the Dutch; and the supplies, which he secretly sent them, were in a strict contravention to the treaty.      <sup>i 23d of June, 1603.</sup>      <sup>k</sup> Grotii Annal. lib. 12.      <sup>1</sup> See proclamations during the last seven years of K. James.      Winwood, vol. ii. p. 65.

a prince,

Hume1778: 6:28

note k Grotii Annal. lib. 12

→ Hugo Grotius, Annales et historiae de rebus Belgicus, 1657.

『イングランド史』の文献リファレンスは不親切・不正確

1	言及先	整理番号	vol	cp	King	chap	note	初出版	最終版	著者	書誌	オリジナルデ
138	Davies_Discovery	144	5	46	James	2	57	1762	1778	Davies	davies discoverie	Id. p. 278.
139	Davies_Discovery	145	5	46	James	2	58	1762	1778	Davies	davies discoverie	Id. p. 280.
140	Wilson	146	5	46	James	2	59	1762	1778	Wilson	wilson	Kennet, p. 68
141	Boderie	147	5	47	James	3	1	1754	1778	Boderie	De la Boderie, vol. i. p. 402, 4	フランス王
142	Coke_Detection	148	5	47	James	3	2	1762	1778	Coke_R	Coke's detection, p. 37	Coke's detec
143	Wilson	149	5	47	James	3	3	1762	1778	Wilson	wilson	Kennet, p. 69
144	Coke_Detection	150	5	47	James	3	3	1762	1778	Coke_R	Coke's detection, p. 37	Kennet, p. 69
145	Welwood	151	5	47	James	3	3	1762	1778	Welwood	Welwood, p. 272	Kennet, p. 69
146	Wilson	152	5	47	James	3	4	1762	1778	Wilson	wilson	Kennet, p. 68
147	Wilson	153	5	47	James	3	5	1762	1778	Wilson	wilson	Kennet, p. 68
148	Wilson	154	5	47	James	3	6	1762	1778	Wilson	wilson	Idem, p. 687.
149	State_Trials	155	5	47	James	3	7	1762	1778	State Trials	State Trials, vol. i. p. 228.	State Trials, v
150	State_Trials	156	5	47	James	3	8	1762	1778	State Trials	State Trials, vol. i. p. 235, 236	State Trials, v
151	Frankland	157	5	47	James	3	8	1762	1778	Frankland	Franklyn, p. 14	State Trials, v
152	State_Trials	158	5	47	James	3	9	1762	1778	State Trials	State Trials, vol. i. p. 236, 237	State Trials, v
153	State_Trials	159	5	47	James	3	10	1762	1778	State Trials	State Trials, vol. i. p. 239, 229	State Trials, v
154	Frankland	160	5	47	James	3	10	1762	1778	Frankland	Franklyn's Annals, p. 2, 3, &c	State Trials, v
155	Wilson	161	5	47	James	3	11	1762	1778	Wilson	wilson	Kennet, p. 69
156	State_Trials	162	5	47	James	3	11	1762	1778	State Trials	State Trials, vol. i. p. 233, 234	Kennet, p. 69
157	Frankland	164	5	47	James	3	13	1762	1778	Frankland	Franklyn, p. 11, 33.	Franklyn, p. 1
158	Frankland	165	5	47	James	3	14	1762	1778	Frankland	Franklyn	Idem, p. 10.
159	Frankland	166	5	47	James	3	15	1762	1778	Frankland	Franklyn	Idem, p. 49.
160	Parl_Hist	167	5	47	James	3	16	1762	1778	Parl_Hist	Parliam. Hist. vol. v. p. 286.	Parliam. Hist

# 引用頻度の測定

## □被引用数の定義と測定

- 調査対象はヒューム『イングランド史』スチュアート巻
  - ヒュームがこのシリーズで最初に公刊した2巻であり、6巻本『イングランド史』の第5・6巻に相当。当初のタイトルは『グレートブリテン史』第1・2巻
- 言及(引用)された文献ごとの被引用数(=当該文献が言及された注(脚注および後注)の数)をカウント
  - 1つの注で、2つの文献に言及がなされたら、それぞれの被引用数が1
  - 他方で、1つの注で同一文献に複数回の言及がなされても、被引用数の定義ゆえ、被引用数は1

## □被引用数にかかる基本情報

- ・『イングランド史』スチュアート巻の全体では、191の文献が、のべ1961回にわたって引用(言及)される
- ・第5巻(ジェイムズ1世とチャールズ1世の巻)では124の文献が、のべ1665回引用される
- ・第6巻(コモンウェルス、チャールズ2世、ジェイムズ2世の巻)では90の文献が、のべ296回引用される

rank	source	num refe nc
1	Rushworth, John, <i>Historical collections of private passages of state</i> , 1659-1701	49
2	Hyde, Edward (Lord Clarendon), <i>The history of the rebellion and civil wars in England</i> , 1705-1706	19
3	Whitlocke, Bulstrode, <i>Memorials of the English affairs</i> , 1682	11
4	Frankland, Thomas, <i>The annals of King James and King Charles the First</i> , 1681	9
5	<i>Journal of the House of Commons</i>	8
6	<i>The parliamentary or constitutional history of England</i> , 1751-61	7
7	May, Thomas, <i>The history of the Parliament of England</i> , 1647	5
8	Nalson, John, <i>An impartial collection of the great affairs of state</i> , 1682-1683	4
9	Wilson, Arthur, <i>The Life and Reign of James</i> , 1706	4
10	Dugdale, William, <i>A short view of the late troubles in England</i> , 1681	4
11	<i>A collection of State Trials</i> , 1719, 1730, 1735	3
12	Thurloe, John, <i>A Collection of the State Papers</i> , 1741-42	3
13	Walker, Edward, <i>Historical discourses</i> , 1705	3
14	Warwick, Philip, <i>Memoires of the reign of King Charles</i> , 1701	2
15	Burnet, Gilbert, <i>The memoires of the lives and actions of James and William</i> , 1677	2
16	Rymer, Thomas, <i>Foedera</i> , 1704-1735	2
17	Temple, John, <i>The Irish rebellion</i> , 1646	2
18	Balcanquhall, Walter, <i>A large declaration concerning the late tumults in Scotland</i> , 1639	2
19	Sawyer, Edmund, <i>Memorials of affairs of state in the reigns of Q. Elizabeth and K. James I</i> , 1727	1
20	James I, <i>The workes of the most high and mightie prince, James</i> , 1616	1

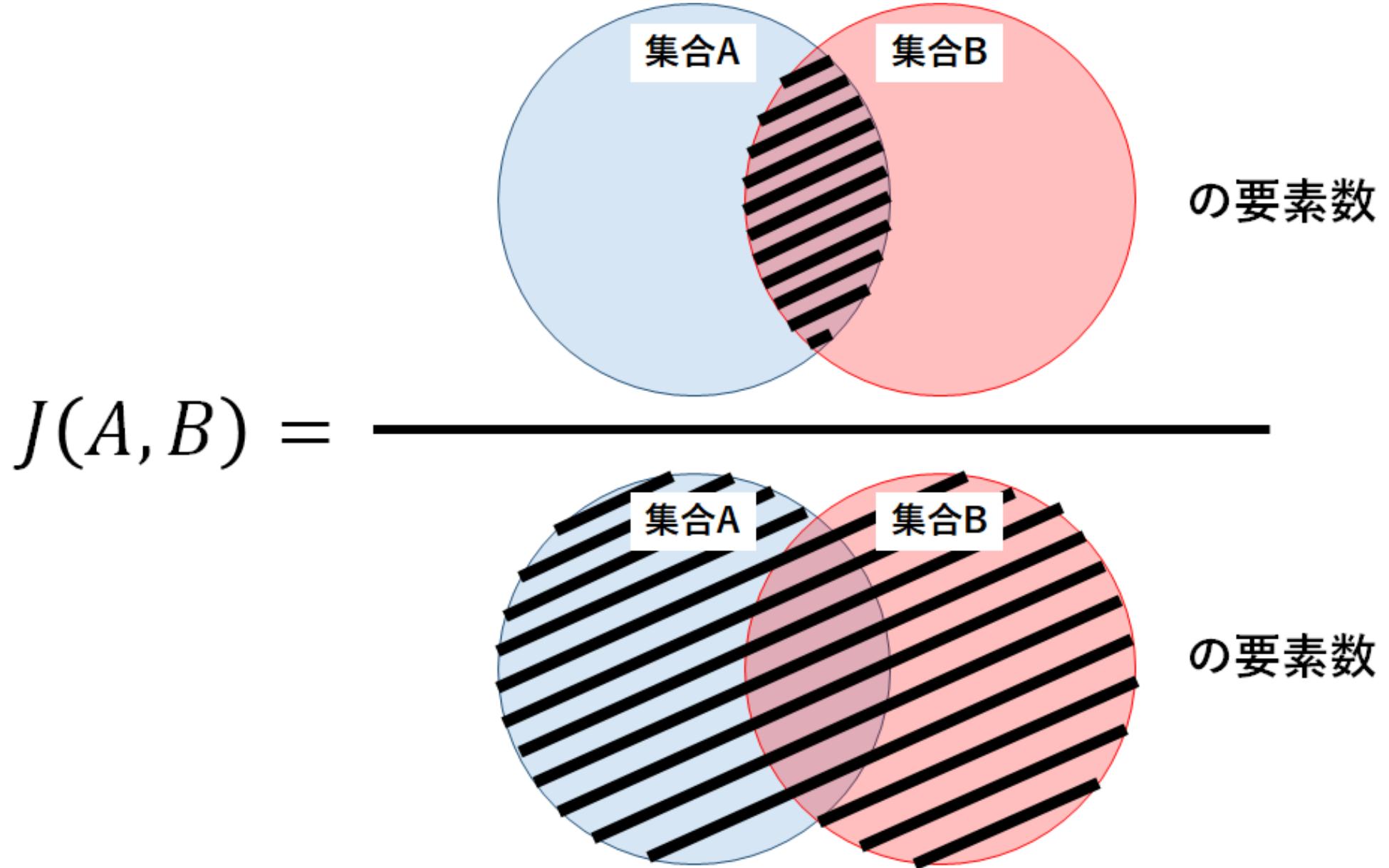
Table 1: Top 20 most frequently cited sources in the HGB

- スチュアート巻全体では、John Rushworth, *Historical collections*, 1659-1701の被引用回数が群を抜いて多い
  - 議会派・共和派の政治家だったRushworth (1612-90) による歴史コレクション(レポジトリ)
  - 被引用回数の多い上位20位に注目すると、歴史コレクション(レポジトリ)(及びそれに類する史料)の引用が目立つ
    - 被引用順位1,4,5,6,8,11,12,16,19
    - ヒュームは、歴史コレクションを用いて、叙述する時代の同時代史料(公文書、演説、パンフレット、書簡等)にアクセスし、基礎史料としている
    - これを、impartialityを確保するための手法のひとつとみなすことが可能

# 各パートで特徴的に引用される文献

## □キーワード分析の手法の応用

- スチュアート巻の各章を治世ごとにまとめて、ジェイムズ1世、チャールズ1世、共和政、チャールズ2世、ジェイムズ2世の5つのパートに分け、それぞれのパートにおいて特徴的に引用されている文献(キー ソース)を、計量テキスト分析におけるキーワード分析の手法を用いて析出
- パートごとの被引用数を単純に測定するのではなく(\*)、Jaccard Indexを測定する手法を採用
  - (\*) そうした手法では、ほかのパートでも同様に頻繁に引用されている文献を排除できない
  - Jaccard Indexは、2つの集合の類似性を測定する指標で、2集合の共通部分  $\text{intersection}(A \cap B)$  / 和集合  $\text{union}(A \cup B)$  で求められる数値。2集合が重なりあうほど値は1に近づき、重なりが少ないとほど0に近づく



出典 [https://mieruca-ai.com/ai/jaccard\\_dice\\_simpson/](https://mieruca-ai.com/ai/jaccard_dice_simpson/)

- 本分析では、『イングランド史』スチュアート巻のあるパートに登場するすべての引用(集合A)と、ある文献に言及するすべての引用(集合B)という2集合の類似性を算定
- 計算にはKH coderを使用
- たとえば、
  - チャールズ1世のパート(50-59章)には1217の引用
  - Rushworthへの引用はスチュアート巻全体で490
  - この2集合の共通部分 ( $A \cap B$ ) (つまり、チャールズ1世のパートにおけるRushworthの引用)は435
  - したがって、この2集合の和集合 ( $A \cup B$ )は $1217 + 490 - 435 = 1272$
  - 上記よりJaccard Indexは、 $435 / 1272 = 0.3419\dots$
- こうして得られた定量的分析の結果を、それぞれの被引用文献の書誌情報や周辺情報についての定性的情報を加味して解釈

<b>James I (chs.45-49, Appendix)</b>	
1 <i>Journal of the House of Commons</i>	.115
2 Frankland	.110
3 Wilson	.089
4 Rymer	.053
5 <i>Parliamentary history</i>	.044
6 Sawyer	.042
7 James	.036
8 <i>State Trials</i>	.032

<b>Charles I (chs. 50-59)</b>	
1 Rushworth	.342
2 Hyde (Lord Clarendon)	.146
3 Whitlocke	.098
4 May	.041
5 Nalson	.035
6 Dugdale	.031
7 Warwick	.023
8 Walker E.	.022

<b>Commonwealth (chs. 60-62)</b>	
1 Thurloe	.257
2 Whitlocke	.068
3 Walker E.	.047
4 Bethel, S. <i>The world's mistake in Cromwell</i> , 1668	.035
5 Bate, G. <i>Elenchus motuum nuperorum in Anglia</i> , 1649	.034
6 <i>Parliamentary history</i>	.033
7 Carte, T. <i>A collection of original letters and papers</i> , 1739	.021
8 Fiennes, N. <i>Monarchy asserted</i> , 1660	.021

<b>Charles II (chs. 63-69)</b>	
1 Temple W. <i>The Works of Sir William Temple</i> , 1720	.123
2 Estrades, G. <i>The secret letters and negotiations</i> , 1711	.103
3 North, R. <i>Examen</i> , 1740	.076
4 Burnet, <i>Memoires</i>	.073
5 Burnet, G. <i>History of his own time</i> , 1724-34	.072
6 Wodrow, R. <i>The history of the Church of Scotland</i> , 1749	.067
7 Dalrymple, J. <i>Memoirs of Great Britain and Ireland</i> , 1773	.066
8 K. James 's <i>Memoirs</i>	.056

<b>James II (chs. 70-71)</b>	
1 D'Avaux, <i>The negotiations of Count d'Avaux</i> , 1754-55	.146
2 Leeds, T.O., <i>Memoirs relating to the impeachment</i> , 1710	.064
3 Atkins, R. <i>An enquiry into the power of dispensing</i> , 1689	.043
4 <i>Rotuli Parliamentorum</i>	.043
5 Coke, E. <i>The reports of Sir Edward Coke</i> , 1656	.041
6 <i>State Trials</i>	.037
7 Burnet, G. <i>History of his own time</i> .	.034
8 <i>Journal of the House of Commons</i>	.031

## □スチュアート各パートのキースース

- ジェイムズ1世治世
  - 歴史コレクションに大きく依拠する傾向
- 内戦期・空位期
  - 歴史コレクションだけでなく、対立する各党派の立場から書かれた同時代史ナラティブ(いわゆる「トウキュディデス的歴史」)を対比する手法が顕著
  - impartialityのための手法のひとつ
- 復古王政期
  - 対立する同時代史を対比する手法は顕著でない

## □いくつかの含意

- テキストの方法と内容を伝える重要情報源としての注
- オーソドックスな計量テキスト分析(形態素に分解して定量的処理)とは別のかたちで、定量的測定ができるテキストのパートとしての注

## 言及文献

Hume, David 1778, *The history of England from the invasion of Julius Cæsar to the Revolution in 1688.*

Susato, Ryu and Hajime Inuzuka 2025, 'Hume's Sceptical Enlightenment Approach to *The History of Great Britain*' (forthcoming).

犬塚元 2023「政治学史研究における一九五五年体制」『月刊みすゞ』728: 38–51.

酒井大輔 2017「日本政治学史の二つの転換：政治学教科書の引用分析の試み」  
『年報政治学』68-2: 295–317.

酒井大輔 2021「戦後政治学の諸潮流：計量書誌学的分析一九四五～一九八九」  
『政治思想研究』21: 291–319.

スキナー、ケンティン 1990『思想史とはなにか：意味とコンテクスト』(半澤孝麿・加  
藤節編訳)岩波書店.



酒井2017



酒井2021